

「北朝鮮人権侵害問題」

今週は北朝鮮による人権侵害問題についてお話しします。

1970年代から80年代にかけて、全国各地で日本人が不自然な形で行方不明となる事件が多発しました。その後の捜査や亡命した北朝鮮工作員の証言から拉致の疑いがあることがわかりましたが、北朝鮮はかたくなに拉致を否定し続けていました。しかし、2002年9月、日朝首脳会談で北朝鮮はようやく拉致を認めました。翌月には、日本政府が認定した拉致被害者17人のうち5人の帰国が実現しましたが、他の拉致被害者については、20年が経過した現在においても北朝鮮からは納得のいく説明がないままとなっています。この他にも多くの方が行方不明のままであり、特定失踪者を含め、北朝鮮による拉致の可能性を排除できない事案として、2023年1月現在で871人の方の行方が分かっていません。

その中には、市島町の西安義行（にしやす よしゆき）さんと氷上町出身の桑村一二三（くわむら ひふみ）さんも含まれています。西安さんは、昭和62年3月15日（日）、21歳のとき、友人と京都府舞鶴市方面へドライブに出かけ、帰宅途中にJR綾部駅前で友人と別れた後に行方不明となっています。桑村さんは、昭和50年9月、21歳のとき、勤務先である姫路市内の飲食店を出た後、行方不明になっています。お2人の行方がわからなくなってから30年から40年が経っていますが、ご家族は今も行方を捜されています。

国は、拉致問題は非常に重要な国民的課題であり、この問題についての関心と認識を深めるため、毎年12月10日から16日までを、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」として定めています。丹波市では、この啓発週間にあわせ、令和5年12月9日から17日まで、ライフピアいちじまにて、「北朝鮮人権侵害問題啓発パネル展」を開催します。北朝鮮拉致被害に関するパネルや西安さん、桑村さんへ向けたお二人のご家族からのメッセージなどを展示します。また、会場では、「北朝鮮による拉致被害者救出」のシンボルカラーである「ブルーリボン」を配布します。

北朝鮮は、「拉致問題は既にすべて解決され、完全に終わった問題だ」と主張しています。しかし、決して終わった問題ではありません。拉致は、身体的自由、居住の自由、家族との絆、そして夢と希望をもって幸せに生きる権利を奪ってしまう重大な人権侵害です。すべての拉致被害者の一刻も早い帰国のためには、私たち一人ひとりがこの拉致問題を自らの問題として考え関心を持ち続けることと、拉致は決して許さないという強い想いとともにより力を合わせていくことが大切です。ぜひ、この機会にパネル展にお越しいただき、拉致問題の解決に向けて考えてみましょう。